

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770302511		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホーム陽だまり 1階		
所在地	福島県郡山市富田町字菱内32		
自己評価作成日	令和4年8月1日	評価結果市町村受理日	令和4年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和4年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季を感じていただくような外出支援や近くの公園の散歩が楽しみとなっております。食事を楽しんでいただく日、麺の日、寿司の日などを設けています。美味しいと喜んで頂いています。又ホーム内の季節を感じる展示作品作りも行って完成品を楽しんでおられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 事業所では日常的に事業所周りや近くの河川公園までの散歩を行い、季節ごとに法人のバスを利用したドライブに出かけ、暑い時期には朝早い時間に外気浴等を行い、出来るだけ外出の機会等を作り、利用者の気分転換の機会となっている。
 2. 職員会議や個別面談で出された職員の意見を取入れ業務見直し等を行い、風通しの良い職場環境作りがされている。また、職員の生活スタイルに合わせて勤務形態や勤務場所を変えることができ、働きやすい就業環境となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新しい理念で1年が過ぎ入居者様の気持ちに寄り添い理念の共有に努めている。成果は足りない部分もあり、今後も継続しながら、ケアの実践につなげていく。	2年前に理念の見直しを行い、地域密着型サービスの意義を反映した理念を作り直し事務室に掲示してある。毎朝の申送り時に唱和しながら、共有している。職員は日頃のケアの中で理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染で思うような交流ができない状況でも、地域の回覧板の回しを続け、地域の一員として交流している。	地域行事に利用者と参加したり、事業所へボランティア等の受入れをする等、地域交流に取り組んでいたが、現在コロナ禍にあり中止にしている。事業所周辺の散歩や地域の回覧板を回す際に挨拶する等、交流の機会を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の活動内容は法人のホームページで情報を開示し、地域の方々に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	コロナ感染で中止としているが運営推進委員の方々へ資料配布を行い、内容についての意見書を頂きながら議事録を作成し運営の向上につなげている。	運営推進会議は定期的開催され、事業所からは、事故・行事・利用者状況等の報告を行い、委員から出された意見等はサービス向上に活かしている。現在は、コロナ禍で書面開催となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課、生活支援課との連絡を密にし、相談・助言を受けている。生活保護受給者入居の受け入れについても連絡を取りながら入居に向けて協力している。また、生活保護受給者が入居している為、地区担当者と連携している。	行政担当者へは外部評価結果や事故報告の提出や介護保険の更新手続きをし、生活保護担当者とは日常的に情報交換したり、報告・相談を行っている。また、不明点・疑問点があれば、いつでも気軽に相談できる関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会は3カ月毎に開催し、やっつけいけない行為などチェックシートを使い、全員で理解に努めている。日中の玄関の施錠はしていない。	身体拘束等適正化の指針をもとに、研修会を定期的開催している。また、3カ月に1回、委員会を開催し、チェックシートで日頃の支援を振り返り、身体拘束をしないケアに努めている。職員が利用者へ目配り、気配りをする事で玄関の鍵をかけた自由な生活につながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、伝達を行い虐待防止に努めている。入居者様の気持ちに寄り添い、言葉遣いにも十分に注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	制度を利用している方もおり、理解し活用できている。研修もあり理解を深める機会が設けられている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には、時間を頂き丁寧に説明し、不明な点はないかご家族に確認しながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様とのコミュニケーションから要望を聞き取り、ご家族からは面会時・見送り時にさり気なく聞き取っている。意見箱の設置で話づらい部分は文書でお願いするようにし、職員間で共有している。	家族の面会時や電話連絡時は、利用者の様子を伝え、意見や要望等を聞き取り、運営に反映させている。利用者の意見や要望は日常の関わり中からくみ取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者面談は、法人にて行われている。職員面談も年2回の考課表提出から、意見を聞く機会を設けている。	管理者は、職員会議・申し送り・個別面談の中で意見や要望を聞いたり、日頃から職員に声掛けをしながら意見等の把握に努め、業務の改善等につなげている。勤務体制等も職員の希望を聞きながら柔軟に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の家庭環境を把握し、働きやすいようシフト調整をしている。処遇改善手当の支給で勤務の意欲向上に繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内での研修等の参加で機会を確保している。職員のレベルに応じた研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や協同組合と連携し、合同の研修や行事を行い、情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査の際に、本人の生活状況や困っていること、不安なことがないか聞き取りを行い、施設で安心して生活して頂けるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での問い合わせや見学時、実態調査の際に、家族の要望や意向等を聞き取り、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時で現在の状況を把握し、本人や家族の意向を確認し、支援状況を多方面で検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様一人ひとりの生活歴や趣味、残存機能を把握し、一緒に行動することで、生きがいを感じて頂けるよう働きかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の日常生活の様子は定期的に伝え、変化があった際には連絡を行っている。面会が困難な時は写真や手紙を送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策にて面会や外部からの来客を控えていたが、テレビ電話を利用したり、予防策を講じた短時間の面会等を行っている。	コロナ前は家族や知人・友人の訪問を受け入れ、利用者と一緒に懇談できるよう配慮していた。現在コロナ禍のため、玄関先での距離をとった面会やオンライン面会とし、利用者の不安を解消し関係の継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や相性を把握し、テーブルの席を工夫している。交流が困難な方には職員が仲介している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族の経過を支援し、必要に応じて連絡や調整を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、一人ひとりの思いや希望等を聞き取りしている。意思疎通が困難な方には家族の意見を取り入れている。	日常での些細な会話から利用者の意向把握に努めている。また、困難な場合は表情や仕草等から察したり、家族から意見や情報を得て、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当者から情報を得て、職員間で共有し、これまでの生活を続けられるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状はケース記録や日誌に記入し、職員が把握できるよう努めている。変化や気付いたことも記録し、伝達している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、毎月ケース会議を実施し、入居者様の希望や家族の意向を取り入れて介護計画を作成している。	3か月毎にモニタリングや担当者会議を実施し、見直しを行っている。利用者との日頃の関わりの中で利用者の思いや希望を把握し、全職員で意見を出し合い、家族の意向を確認しながら、現状に即した介護計画を作成している。利用者の心身状況等に変化があった場合は、状況に応じた見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況や様子を個別に記録し、問題があればケース会議の中で検討し、介護計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の状況に合わせ、希望に添うように対応している。自事業所では対応できない場合は、他事業所のサービスも検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染予防の為、外部との接触機会が極端に少なくなっているが、地域資源は把握している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の継続と訪問診療の受診を選んで頂くようにしている。専門科への受診は家族の協力を得ている。	入居時に往診を勧めており、協力医を含めた3か所の医療機関を紹介して選択して貰っている。全員が往診で結果は毎月、受診記録の写しを家族へ送付して知らせている。家族対応で専門医に受診する場合、主治医への情報伝達と結果報告は、家族を通して口頭で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師が週1回訪問し、健康管理を行っている。本人の状態を報告し、助言を受けながら、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には職員が付き添い、医療関係者や家族と情報を共有している。安心して早期に退院できるよう連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合に書面にて意向を確認している。終末期に入った場合は家族と密に連絡を取り合い、安心して最期を迎えられるよう支援している。	契約時に指針に基づき事業所の対応を説明し、終末期の意向を確認している。利用者が重度化した時には書面で家族の看取りの意向を確認し、希望に応じて看取りを行っている。毎年、看取りの研修を実施し、看取り後に振り返りを行い利用者が安らかに最期を迎えられる終末期ケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月事業所内で救急救命訓練やAEDの操作訓練を行い、緊急時はマニュアルに添って対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月事業所内で防災訓練を行い、年2回消防署立ち合いにて総合訓練を実施している。近隣の方の連絡網を作成し、有事の際は協力して頂けるよう連携がとれている。	毎年、2回の総合訓練を実施している。このうち1回は消防署立ち合いのもとで訓練を行い、指導やアドバイスを受けている。これに加え、事業所独自で年間計画を立て地震・風水害や夜間等様々な想定訓練を毎月実施するようにしている。近隣の4軒の民家に災害発生時の応援の承諾を得て緊急連絡網を作成して事務所に掲示している。	毎月実施する訓練では、ハザードマップや地形から可能性が極めて低い想定訓練を複数回行ったり、集合訓練や連絡訓練等統合できる訓練を別個に行っている。夜間想定火災訓練へより多くの職員が参加できるようにする等、実効性のあつた計画の見直しが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の理念である、人間としての尊厳を大切にしながら業務にあたっている。個人情報に関わる書類は施錠可能な書棚にて管理し、広報誌への掲載には承諾を得ている。	プライバシーや接遇に関する研修を毎年実施し、利用者の気持ちに寄り添い誇りやプライバシーに配慮したケアに努めている。トイレの誘導では、羞恥心に配慮した言葉かけを行っている。また、失禁した時には、周囲に気づかれないよう注意して本人の自尊心を損ねないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	サービス提供時には本人の意思を確認し、理解力が低下した方には分かりやすい言葉で対応している。服を選ぶ際や飲み物を提供する際に自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの日々の過ごし方を把握し、何かを行う際には意思や希望を確認してから行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の汚れがあれば、すぐに着替えを行っている。季節に応じた身だしなみができるよう声掛けし、髪型も本人の希望を確認してから散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	事業所で畑を作っており、季節の野菜を食事に提供している。職員と一緒に食卓を囲み、会話をすることで食事を楽しんでいる。	配食会社のチルド食を利用し、ご飯とみそ汁を事業所で手作りしている。みそ汁は、畑で取れた旬の野菜をふんだんに使って提供している。また、誕生日や行事の折りに利用者の希望に応じ、行事食や生寿司等好みの食事を提供している。さらに、2か月に1回程度は、チルド食を止め、カレーの日やうどんの日として喜んでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが整い、塩分控えめなチルド食を提供している。個人の摂取量を把握し、記録している。不足時には主治医に確認しながら補助食品を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。義歯の方は夜間預かりにて洗浄、消毒している。社内の歯科衛生士が訪問し、口腔内の健康管理を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、定時や随時のトイレ誘導を行い、失敗なくトイレで排泄できるように声掛けしている。	ケース記録は24時間単位で記入しているため、一人一人の排泄パターンが把握できている。一斉の定時誘導ではなく個々の排泄パターンに基づき個人ごとに定時でトイレ誘導をしている。また、利用者が発する言葉や仕草から排泄の兆候を把握して随時誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日午前と午後に軽体操を行っている。便秘の方には主治医に相談しながら、下剤を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決めていない。好みの湯温に調整し、入浴剤を使用したり、ゆずを入れたり、のんびり入って頂けるように工夫している。	週2回以上の入浴とし、希望する利用者には3回入浴できるよう支援している。利用者ごとに湯を入れ替え、入浴剤を入れたり事業所に植えてある柚子を入れて楽しんで貰っている。また、利用者の好みの湯温に調整して、職員と話したり一緒に歌を歌って、ゆっくり入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は適度に午睡をして頂き、夜間安眠できるように、温度や湿度、光や音に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬記録を把握し、チェックリストを活用している。不明な点や管理について疑問があれば、薬局に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	モップ掛けや食後の食器拭き等を行って頂き、生活意欲の向上を図っている。裁縫等の趣味を続けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的にホームの周辺を散歩している。事業所の行事にはバスによる外出も行っており、季節を感じて頂けるような外出支援を行っている。	コロナ禍においても、年2回、花見や紅葉の時期に本社のバスを利用してドライブを行っている。また、コロナ感染の恐れがある買い物や外食は自粛しているが、天気の良い日はマスクを着用し近くの散歩コースや事業所の敷地内を散策するなど積極的に外出している。さらに、玄関にベンチを設置して外気浴を楽しんで貰っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に家族の同意を得て、事業所にて金銭管理を行っている。少額自己管理をされている方もいて、所持することで安心されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の同意を得て、電話や手紙のやり取りができるよう支援している。家族の声を聞くことで、安心して過ごされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは居心地よく過ごせるよう、季節の飾り付けを行ったり、写真を飾ったりしている。光や音、臭い等で不快感を与えないよう配慮している。	リビングの壁面には、季節に応じた貼り絵や行事等の利用者のスナップ写真が飾られている。常時、通路の小窓等を開け換気を行っている。職員が温度計など温度や湿度を確認して調整し、利用者が快適に過ごせるように努めている。また、テレビでユーチューブの時代劇等好みの番組を放映し、寛いで過ごせるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごすことができるようソファを設置したり、仲の良い方で話しができるよう、席やテーブルの配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	居室は全て個室となっており、トイレと洗面所が設置されている。愛用の家具や仏壇を持ち込まれている方もいて、馴染みの生活を続けられるようにしている。	各居室にはトイレが付いており、ベッド・エアコン・クローゼット・洗面台が設置されている。入居時に、自宅で使用していた馴染みの品物を持ち込んでもらうよう説明している。利用者は、仏壇、ダンス等の他に、本や編み物、習字道具等を持ち込み、居室で趣味の物に触れながら馴染んだ生活を楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りを設置したり、居室の入り口に表札を設置したり、本人ができるだけ自立した生活を送ることができるよう工夫している。		